

学校教育目標

「自ら学び続ける、心豊かな生徒の育成」

本年度の重点

1. 組織運営
2. 「基礎学力」「基礎体力」の定着・「基礎モラル力」「非認知能力」の育成
3. 安全・安心な学校づくり
4. 教職員の資質向上
5. 家庭・地域社会と連携した教育の推進

総合的な自己評価

急激に進む社会構造の変化により、教職員も変化と対応が求められ、更なる能力開発と指導力向上が必要となっている。そのような中、本年度は、「基礎学力」「基礎体力」「基礎モラル力」「非認知能力」「教職員の資質向上」を重点事項として取り組んだ。日々の教育活動や校内研修を通して、職員が以前より高いレベルで見直しの必要性を感じ、個人的にも、組織的にも改善に取り組み始めようとしている。取り組みにより教職員の意識が向上し、全体的に厳しい自己評価となっている。厳しい自己評価ができるようになったことが、今年の成果の一つであり、意識改革が始まっていると評価している。

学校評価の方法についての学校関係者評価

学校目標達成度や教育活動の様子は、数値等の明確な結果がないため、評価の基準づくりが重要になる。今年度は、教職員の意思統一を職員朝集で繰り返し行い、校内研修も定期的実施することで、教職員の基準づくりを見直された。そんな教職員が行った「自己評価」を全体に返し、それをもとに「学校評価」につなげる取り組みにより「評価」の信頼性を高めている。今後も引き続き、評価の基準を明確にしていく必要がある。

総合的な学校関係者評価

今年度は、「自己評価」「学校評価」の評価項目を、より具体的で、より実践的なものに修正することにより、教職員が明確な振り返りができるようになった。職員朝集や校内研修で、教職員の意識向上、教師力向上に取り組まれたことと、評価項目の修正により、「自己評価」と「学校評価」の結果は、昨年より厳しい評価がされている。評価が下がったのは、意識が上がった結果と捉えられる。今後は、現在の取り組みを進め、組織を動かすミドルリーダーと若手教員の育成を期待している。

学校自己評価結果 A…よくできた B…できた C…あまりできなかった D…できなかった

評価項目ごとの学校関係者評価

分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取組状況・課題・改善の方策	自己評価結果および改善方策の評価
学 習 指 導	基礎的・基本的な知識・技能の習得に努めている。	B+	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的なプリント、反復練習、小テスト、テスト直し等を繰り返し、基礎学力の定着に努めている。 ・教師力・指導力を伸ばすために研修や教科会をもつ等、研鑽の場を持つ必要性を感じる。 ・規律の意味を理解させ、形だけにならないようにしたい。学習規律と学習意欲はつながっていると思う。 ・忘れ物の指導はするが、改善には至っていない。生徒や教科が固定化していることも問題。 ・様々な指導形態を行っているが、本当に一つ一つの形態が最善で効果があるかを検討する必要がある。 ・本時の課題などを提示し授業を行い、最後には本時の振り返りを行っている。 ・学習シートも、前年に作成したものより効果的なものにと変更していている。 ・授業後には「わかる」実感を生徒が持っているが、持続させる反復学習の工夫が必要と感じている。 ・生徒主体で対話的な場面を、毎時間でないが、意識的に設定することができた。 ・教科会での情報交換は定期的に行い、改善策を検討できた。 ・研修・実技講習などに参加し、研修を重ねることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育の最終段階で、卒業後のより上級な学びの土台作りとして、「基礎学力」「基礎体力」定着に取り組むことは、意義深く将来への確かな力へ繋がるものとなる。 ・評価として、何をしたという取組指標になるのではなく、どうなったという成果指標にならないといけな。 ・非認知能力にも繋がる「教科嫌いをつくりたくない」取り組みには、共感ができる。来年度以降も継続して取り組み、生徒の非認知能力の育成をお願いしたい。 ・未来塾や放課後ががんばりタイムといった「基礎学力」への取り組みの成果が出てきはじめてことが評価できる。
	思考力・判断力・表現力の育成に努めている。			
	学習規律（時間・忘れ物・宿題・自主的発表）を確立し、学習に向かう姿勢や気持ちをつくらせている。			
	学習効果を上げるため、個別やグループ別指導等、効果的な指導形態の工夫・改善を行っている。			
	毎時の授業のねらいを明確にするとともに、板書、発問、ワークシート等に工夫・改善を行っている。			
	生徒の個性や到達状況などを把握し、個に応じた指導により「わかる」「できる」を生徒が実感できる授業づくりに努めている。			
	各教科の特性を踏まえ、関わり合い学び合う学習、体験的・問題解決的学習を設定し、生徒が主体的に取り組む授業を展開している。			
教科会などを適宜開き、情報交換を行い、自らの授業を振り返り、工夫・改善を加えている。				

分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取組状況・課題・改善の方策	自己評価結果および改善方策の評価
道徳・人権教育	自他の生命を尊重し、人間的ふれあいを深め、思いやりのもてる豊かな心の育成に努めている。	B+	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動を通して、少しずつ思いやりの心は育っているように感じる。 ・教師が内面的資質を高め道徳性を持っていなければ、生徒には伝えることができないと再確認した。 ・発問の内容など改善が必要と感じる。対話による授業にまで到達できていない。 ・学年会で、資料の読み取りや授業後の話し合いを活発に行っている。 ・道徳の授業を学年で相互に参観することにより、先生方の授業力が確実に向上している。 ・理屈では理解しても、心ない言葉や相手を傷つける行動がある。その行為を流す学級の雰囲気は断ち切りたい。 ・SHRで生徒と一緒に考える時間は増え、少しずつ心は育っているように感じる。 ・全校朝集の青葦スピーチ等で教師が語る機会が増えたことで、生徒が生き方について考える機会は増えている。 ・「おかしい」ことが問題提起され、生徒たちから自然と声が上がリ議論できる学活やSHRに内容が変わってきた。 ・計画的に道徳の授業は行えているが、時期や学年の特性等もふまえた計画の見直しが必要だと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育で、最も身につけるべき力として「基礎モラル力」を位置づけていることは評価できる。 ・道徳研修を本年度から講師を招いて計画的に実施したことは、「基礎モラル力育成」と「道徳の教科化への取り組み」として大変評価できる。 ・修学旅行に取り入れた班別学習のねらいと計画を明確にし、教育効果のある校外学習にして頂きたい。
	年間指導計画に基づき教材・資料を充実させるとともに、対話による授業力を向上させ、道徳的心情と道徳的判断力の育成に努めている。			
	自他の違いを理解し、違いを認め支え合い、共によりよい生き方に向かう姿勢を醸成している。			
	年間指導計画に基づいた指導を行い、身近な問題に気づき、考えることで、人権感覚を養っている。			
特教別育支援	支援が必要な生徒の実態把握と教育的ニーズの理解をし、個に応じた適切な支援・指導を行っている。	B+	<ul style="list-style-type: none"> ・全体指導の中で埋もれる場面や、支援が必要な生徒が多い場面もあり、適切な支援・指導が不十分であった。 ・個別の指導計画・発達支援ファイルなどを作成し、実態把握の情報交換をし共通理解に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今の時代、あえて「不自由」「不便」「不親切」を体験させること。大人が先手を打つのでなく、あえて“失敗”を経験させること。学校で、そのような経験を積ませることを期待している。
特別活動・総合学習・その他	好ましい人間関係とモラルのある集団生活が営まれる学級・学年づくりがすすめられている。	B-	<ul style="list-style-type: none"> ・表面上の指導だけになって、本質や生徒の心を動かすような指導はできていない。 ・生徒の人間関係がギクシャクしているように思われる。LINE上のモラルを考えさせる必要がある。 ・正しい意見を言う者が受け入れられており、活気あるクラス運営がされている学級がではじめた。 ・委員長会、学級活動、行事を通して、教師の指示を待つ場面が多く力を伸ばせていない。 ・教師がお膳だてし過ぎの面があるので、生徒に考えさせるしかけを準備することが大切だと思う。 ・基礎モラル力と非認知能力を高める視点から、以前よりも意識的に取り組みが行われている。 ・教師側が入念にねらいを共通理解し、意図的、計画的、効果的な活動をつくらせていない。 ・チーム目標を決定、そのために月毎の個人目標を計画・発表させ、反省会をもって取り組ませることができた。 ・一部の部活動をやる気がない生徒のために、やる気ある生徒がしんどい思いをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非認知能力の育成の中でも、特に「対人能力」「コミュニケーション能力」の必要性を感じる。来年度以降、具体的な取り組みを考えてみてはどうか。
	生徒の主体的・協働的活動を支援し、生徒主体の学校づくりを通して、創造的な力の育成に努めている。			
	事前・事後指導を充実させ、意図的で計画的な特別活動や総合学習により、基礎モラル力と非認知能力の効果的な育成が進められている。			
	部活動の意義を理解し、達成感や満足感の体験を通して非認知能力の育成に努めている。			

分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取組状況・課題・改善の方策	自己評価結果および改善方策の評価
生徒指導	基本的な生活習慣の確立、規範意識の育成、基礎モラル力の向上に努めている。	B+	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が表面的には平穩に見えることで、唯々諾々としている。 学校ばかりで身につくものとも思えない。もっと家庭や地域と連携すべき。 形だけの指導がおおく、生徒の気持ちに寄り添い、本質の指導にまで踏み込めていない。 学年教師集団で、問題を明確にし、ポイントのずれない指導を組織で意識して行うことを確認した。 報告・連絡・相談の難しさを知ったことと、人の話をきっちり聞くことの難しさも同時に感じた。 学年内での情報交換は密になり、すぐに相談する体制が整い、連携は高まってきている。 生徒に寄り添うことを心掛けることで、生徒や保護者が相談してくれることが増えた。 自主ノート、授業での様子を報告しあう等、まめな保護者との報告・連絡・相談を継続していく。 SC・SSWと連携は密に取り、主観にならず専門職の角度からも生徒理解に努めていくようにしている。 別室登校が整理され、不登校生が登校しやすくなった。教師によって不登校生に対する意識に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 表面的に落ち着いて見える校区であるが、不登校や気になる家庭は地域に多くある。これからは、家庭や保護者の問題を、地域や専門機関と連携して取り組む必要が出てきているのではないかと。 不登校生の為の別室の整備等、取り組みにより、不登校生の変化を耳にしている。継続して体制整備を進め、全ての生徒の居場所づくりに努力をお願いしたい。 LINE等のトラブルが、子どもからもよく聞こえてくる。本来は家庭の問題であるが、家庭力が落ちている今、学校も現状を把握し、学校ができることとして「基礎モラル力の育成」に取り組んで頂きたい。 組織として、報告・連絡・相談は基本的なことである。危機管理が求められる今、教職員も報告・連絡・相談がきちんとされる当たり前の組織作りをお願いしたい。
	生徒の実態をふまえ、厳しさと温かさのある生徒指導を実践し、自ら考え、判断し、行動する態度の育成に努めている。			
	円滑な報告・連絡・相談により職員の共通理解を図り、問題行動等への誠実で迅速な組織的対応が行われている。			
	生徒理解に努め、生徒や保護者が安心して相談できるようにしている。			
	不登校生に対し、家庭や関係機関(SC・SSW・総合教育センター等)と連携を図り、職員間の共通理解がある組織的な支援が行われている。			
キャリア教育	学年に応じた進路指導計画に基づき、社会人としての自立に向け、自己を見つめ、夢や目標をもって将来の生き方を考えるキャリア教育を推進している。	B+	<ul style="list-style-type: none"> 制度や時代の変化に即した柔軟な視点を持ち、対応するための学習や知識を教師が更新しなければならないと思う。 キャリア教育の3年間の計画に基づいた学年に応じた内容の精選など、意図的かつ継続的な指導をつくる必要がある。 学期末の決められた教育相談だけではなく、必要に応じて適宜行っていくことが望まれる。 	
	保護者と連携し、自らの意思と責任で生き方や進路選択ができるよう、教育相談の充実に努めている。			
安全・防災教育	生徒の健康や安全に留意し、活動環境や活動状況を把握する等、安全対策に努めている。また、事故等の緊急時の体制を整備し、役割分担を明確にしている。	B+	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の対応や役割分担について、認識不足な点が多く、再確認する必要性を感じた。 長距離走大会の練習中や当日の緊急体勢が不十分であった。教師同士の連携も強化していきたい。 大事なことであると認識しているが、日々の業務に追われて、どうしても後回しになってしまっている。 形式的な訓練ではなく、突然実施される訓練から教師がどう動けたかを検証する機会があってもよい。 	
	火災、地震、社会を脅かすような事態等に対する意識を高め、迅速かつ適切な対応ができるように、防災意識や危機管理能力の向上に努めている。			

分野	評価項目・取組内容	評価	学校の取組状況・課題・改善の方策	自己評価結果および改善方策の評価
地域・家庭・社会と連携	学年・学級通信・配布物やHP・オープンスクール等により、学校の情報や教育活動の様子を家庭・地域に伝え、保護者及び地域の学校への関心を高め、理解と協力を得るよう努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の様子や生徒の成長が保護者に伝わるような学級通信になるよう心がけている。 ・地域行事にも参加し、共に活動することで地域と学校とのつながりに貢献することができた。 ・HPも頻繁に更新され、学校の情報は正しく伝えられて、開かれた学校づくりができていているように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールで、本年度は合唱の練習やリハーサルを公開したが、そのことが十分に周知されていなかった。また、できれば期間や時間帯の工夫をして頂き、小6の保護者などにも参観機会を広げて頂きたい。
教職員の資質向上	学校運営参画意識と貢献意欲をもち、分掌された校務を的確かつ効率的に行っている。	B+	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の校務分掌の範疇のみで、学校全体を見通した仕事できていない。 ・研究授業や研修で学んだことを、その場だけでなく意識し継続して取り組むことが不十分であった。 ・学ぶことが多く、教わったことを吸収できた。生徒に還元できる自分になるよう努力している。 ・授業改善(主体的・対話的・深い学び)に関する研修が不足しているので、研修を探し参加したい。 ・校内でしっかりした研修がなされており、若い先生方にとって大いに効果が上がっている。 ・OJT研修で職員の意識が変わりつつあると思う。 ・先輩に格好いい見本となる先生がいらっしゃるので、全部吸収して学び、自分の教師像を確立させたい。 ・働き方改革、業務改善の必要性を感じるが、実際は、業務が多すぎて推進できていない。 ・業務改善に向けて、本当に必要なものを考え、仕事の中身を整理する具体的な改革の必要性を感じる。 ・協働的な職場づくりを推進されている先生が、まだまだ少なく、個々で仕事をしている。 ・最悪のことを意識するようになった。まだ抜けている時、考えが甘い時があるので、学んでいきたい。 ・生徒指導上の問題が少ない学校であるから、大事に至っていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度から家庭訪問を2・3年生も実施する取り組みは、教師も保護者も負担は増えるが、生徒指導面を考えると当然の取り組みであり、評価できる取り組みである。 ・HPでは学校の情報が発信され、開かれた学校づくりに繋がっている。各学年の学年通信、学級通信では、学校や先生方の思いを積極的に発信して頂きたい。 ・世間的にコンプライアンスが厳しくなっている。先生方も、生徒や保護者の信頼を裏切ることのないよう、誠実で厳正な姿勢で職務に取り組んで頂きたい。
自ら校内外の研修に積極的に取り組み、教職員としての資質、実践的指導力の向上に努めている。				
高い理想、目標をもって挑戦し続け、教職員プロとしての誇りのある指導を実践している。				
働き方改革の意識をもち、計画的で効率の良い業務改善を図り、他の職員を気にかける協働的な職場づくりを推進している。				
コンプライアンス意識の向上を図り、様々な危機管理意識をもった職務の遂行に努めている。				